

# ビワ生育情報

第 6 報  
千葉県農林水産部  
令和 4 年 3 月号

本年は1月上旬に最低気温が $-3^{\circ}\text{C}$ を下回る日があったため、一部で寒害が発生しました。

開花期は「楠」、「大房」、「田中」とも平年より早く進みましたが、12月下旬以降、平均気温が低く推移したため、幼果の大きさはやや小さくなっています。

## 【幼果の寒害、果房の発育】

ビワ幼果の生存率を表1に示した。樹冠外側の生存率は「楠」は66%で平年並み、「田中」は88%で平年よりも高かった。樹冠内側の生存率は「楠」は94%、「田中」は98%で平年よりも高かった。

ビワは幼果が最も寒害を受けやすく、幼果が $-3^{\circ}\text{C}$ に2時間以上遭遇した場合に発生しやすい。暖地園芸研究所では、1月1日未明に $-3^{\circ}\text{C}$ を下回ったが、1月1日時点では幼果は少なかったため寒害は発生したが、甚大な被害にはならなかったと考えられる。

果房内の幼果数は平年並みである。本年の開花盛期は3品種とも平年より早かったが、12月下旬から2月にかけて平均気温が低く推移したため、幼果の大きさはやや小さい。4月に向けて平均気温が高くなり、果実の肥大が進むと擦れ傷、虫害などを被りやすくなるので、摘果・袋かけ作業は幼果の状態を確認しながら早目に進める。

本年の果樹カメムシ類の越冬量は、南房総市他県南地域で多発生と予測されており、今後の発生予察情報を参考にする。また、カメムシの発生が例年多い園では、4月下旬以降、ビワ園への飛来に注意を要し、千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従って防除を行う。

表1 ビワ幼果の生存率（暖地園芸研究所）

品種	樹冠の外側(%)			樹冠の内側(%)			内外の平均(%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	66	66	100	94	91	100	80	78	100
大房	—	82	93	—	94	98	—	87	96
田中	88	79	100	98	94	100	93	87	100

調査日：「楠」、「田中」は令和4年3月7日

「大房」は調査時点で花たくが閉じていないものが多いため未実施

平 年：平成10年～令和3年の24年間の平均

## 【令和4年2月の気象】

令和4年2月の半旬別の気象を表2に示した。平均気温は第4、第6半旬は平年よりも高く推移し、第1半旬は平年並み、第2から第3、第5半旬は平年よりも低く推移した。月平均気温は $5.6^{\circ}\text{C}$ で、平年より $1.0^{\circ}\text{C}$ 、前年より $3.6^{\circ}\text{C}$ 低かった。

氷点下日数は14日で平年より5.9日多かった。最低極温は第6半旬は平年よりも高く、第1、第3、第4半旬は平年並み、第2、第5半旬は平年より低かった。月間では、2月6日の $-2.4^{\circ}\text{C}$ が最も低かった。

降水量は第3、第4半旬は平年よりも多く、第2半旬は平年並み、第1、第5から第6半旬は0mmであった。月合計は113mmで平年の130%、前年の168%であった。

日照時間は第5から第6半旬は平年よりも多く、第1、第4半旬は平年並み、第2から第3半旬は少なかった。月合計は170時間で平年の110%、前年の82%であった。

表2 令和4年2月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温 (°C)			氷点下日数 (日)			最低極温 (°C)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	5.7	5.6	8.2	2.0	1.8	1.0	-1.3	-1.4	-0.5
2	4.4	6.3	7.6	2.0	1.7	1.0	-2.4	-1.2	-1.4
3	4.7	6.7	11.3	3.0	1.6	0.0	-1.4	-1.2	3.4
4	6.8	6.5	8.2	2.0	1.4	2.0	-0.8	-0.7	-1.0
5	4.1	7.3	12.4	5.0	1.1	0.0	-1.8	-0.5	3.6
6	9.2	7.9	6.4	0.0	0.6	1.0	1.4	1.0	-2.2
平均/計/最小値	5.6	6.6	9.2	14.0	8.1	5.0	-2.4	-2.6	-2.2

半旬	降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	0	12	4	28	29	35
2	13	12	0	25	28	41
3	52	12	63	23	28	27
4	47.5	18	0	28	27	40
5	0	19	0	34	27	46
6	0	15	1	32	16	18
計	113	87	67	170	154	207

平 年：1991～2020年の30年間の平均

最低極温：各半旬あるいは2月中に記録した最低気温

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

#### 【4月の作業】

4月になると平均気温が一段と高くなって枝葉・根ともに伸長が盛んな時期になり、果実の肥大も急速に進む。3月に続き、摘果・袋かけが重要な作業になる。

#### ○摘果・袋かけ

平坦地のように寒害を受けやすい園では、幼果の生死の判別が容易になる頃から摘果を始める。果形が細長いもの、果実肥大が均一でないもの、果皮に張りが無いものは被害果の可能性が高い。被害果の発生が多い園では、樹冠の外側の幼果は避け、被害が比較的少ない樹冠の内側の幼果を多く残すようにし、収量低下を抑える。

#### ○除 草

春草が繁茂する時期になるので、収穫が始まる前に除草を済ませる。草生栽培園では、有機物を補給する意味で草を刈り取って樹冠の回りに敷くとよいが、労力の足りない場合は除草剤を利用する。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室電話：0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>